

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ヨコハマシリツダイガク	フリガナ) コクサイソウゴウカガクブ	フリガナ) フジサキゼミ
横浜市立大学	国際総合科学部	藤崎ゼミ

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ)	フリガナ) サトウダイ	5	無	
モツアレラチーム	佐藤奈			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

学生団体へのヒアリング、地方議員へのヒアリング

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

若者が政治的関心を得るには

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本年 7 月に行われた第 25 回参議院通常選挙。定期的に行われる選挙で毎回問題になるのは投票率の低さ、特に若者の投票率の低さである。内閣府や総務省のデータから、若者の投票率の低さは、政治への関心の低さが一つの原因であると私たちは考えた。そこで、若者の政治への関心を高めることを目的に研究を進めていった

解決策としては、学生と議員の距離を縮め、政治を身近なものに感じてもらうイベントを開催するというものを挙げる。具体的な内容は 4 の項目で記述する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

内閣府が平成 30 年度に行った「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、「あなたは自国の政治に対してどれくらい関心があるか。」という質問に対して、「非常にある」「どちらかといえばある」と回答したのは全体の 43.5%で、半数にも達していない。この数値の低さは他国と比較するとより顕著であり、ドイツはこの割合が 70.6%にも上る。また、総務省が平成 28 年度

に行った「18 歳選挙権に関する意識調査」で、「家族と政治の話をするか。」という問いに対して「よくする」「ときどきする」と回答したのは全体の 36%だった。このデータからも若者の政治への関心の希薄さが見て取れる。

また、今回の参議院選挙では若者の政治への関心を引き出そうと、SNS を活用して政策をアピールする政党もあった。具体的に言うと、「NHK から国民を守る党」や、「れいわ新撰組」だ。SNS を活用したアピール方法が功を奏し、この 2 つの政党は、多くの議席を獲得した。このことから、SNS と選挙・政治のかかわりはこれからますます深まっていくと予想される。政治家と有権者のコミュニケーション方法が増えたことは喜ぶべきだが、そこにはもちろん課題もある。その問題については次項目で言及する。

3. 研究テーマの課題

先行研究や、学生団体へのヒアリングを通して見つけた課題から 2 つをピックアップして、本研究テーマの課題とする。一つ目は、若者にとって国の政治が身近ではないために関心度が低くなっていることだ。二つ目は、SNS 特有の問題である「フィルターバブル」を公平性が重要となる政治の場で、どのように防ぐかということだ。フィルターバブルとはインターネットで利用者が好ましいと思う情報ばかり選択的に提示することで、思想的に社会から孤立することである。このフィルターバブルのせいで政党に関する情報を不均等に有権者が得ることが課題になっている。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

先程出た 2 つの課題をクリアするために、課題解決策として、「お見合い意見交換会」を開催することを提案する。これは、学生と地方議員が直接対話することで学生と政治の距離を縮めて、身近なものに感じてもらうことを狙っている。

具体的に説明すると、選挙権を持つ直前の高校 2 年生を対象にし、学生数人の 1 グループに 1 人の議員を混ぜて、10 分ほど意見を交換する。そのあと、お見合い回転寿司のように、議員の方がぐるりと回って次のグループに移動する。それを繰り返すことによって学生は様々な議員の異なる意見を聞くことができ、さらに議員も多様な若者の柔軟な意見を聞くことができ、互いに理解を深めることができる。学生側は議員が身近なところでなにをしているかがわかるため、政治への関心が高まることが期待でき、議員側はアナログな方法で未来の有権者にアプローチできるため、フィルターバブルの問題の解消も期待できる。

また、この案の実現可能性を裏付けるために、過去に実際に行われた類似事例を紹介する。沖縄県で開催された「沖縄県議会高校等出前講座」である。参加した議員や学生の満足度は高く、「またやりたい」「他のところでもやってほしい」の声が多く挙がっていたことから、今後地方自治体や学校が開催に前向きになってくれることも期待できる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

学生団体 ivote や横浜市議員に対してヒアリングを行った。

学生団体 ivote にはこれまでの活動やこれからどのような活動を行っていくかについて話を聞いた。これまでどのような活動を行い、それに対する学生の反応について質問した。すると、政治をわかりやすく説明することをメインに活動したが、限界を感じているみたいだった。さらに、SNS と選挙の関りが深くなることについては有権者と候補者のコミュニケーションツールが増えることはメリットだが、フィルターバブルによる議員間格差も起こりうると話している。

また、横浜市議員の方々にはもし高校生と話し合う場が設けられたら参加したいかどうかについて伺った。横浜市議員 竹野内猛さん(公明党)は参加したいと考えておられ、さらに、若者の関心を高めるのに有効であるとおっしゃった。また同じく横浜市議員 高橋のりみさん(自由民主党)も参加したいと考えているとおっしゃっており、詳しく話を聞きたいと前向きな姿勢を見せてくださった。横浜市議員 黒川勝さん(自由民主党)は実際に若者に政治の関心を高めてもらうため、以前の選挙で QR コードを多用し、若者向けのアピールをしていた。今回の案についても「そういう機会があれば絶対に行きたい。」と意欲を示してくれた。横浜市議員 福地茂さん(自民党)は、「政治家がもっている葛藤を若者の人に伝えたい。そのままの熱量で学生に届けるには、直接対話をしていくことが大切だ。」と熱く話してくれた。

6. 結果や今後の取り組み

ivote は「13 年間活動してきたが、学生に政治のことをわかりやすく伝えるだけでは限界があると感じている。国の政治は学生にとって身近ではないため、関心が向かないのだろう。」と話す。より身近な地方政治を盛り上げていくことが若者の政治への関心の向上につながると話していた。SNS と選挙が今後かわっていくことについては ivote は、「非常に嬉しいことだと思う。ただ、SNS に入り込めない年配の議員が多いのも事実としてある。いまだに HP すら持っていない議員も多いため議員内格差が起こりうる危険性がある。また、現在一番トレンドな SNS は instagram だが、これは写真がメインのツールのため、意見交換がしにくい。意見交換のしやすい twitter で盛り上げていくべきだと思う。これからデジタルな方法がメジャーになっていくと思うが、フィルターバブル等の新しい問題がでてくることは目に見えている。そんないまだからこそアナログな方法を突き詰めていくのも効果的だと思う。」と述べてくれた。

議員の方々は私たちの案に好意的だったため、今後横浜市の高校生と議員の方が話し合える場を設けようと思う。また、その後は、生徒たち同士で意見を交換することで、議員の話を聞くだけでなく自分で考える機会をつくる。

7. 参考文献

- http://i-vote.jp/?page_id=92
- https://www.instagram.com/noyouth_nojapan/
- 内閣府 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 平成 30 年度
- 総務省 18 歳選挙権に関する意識調査 平成 28 年
- <https://vdata.nikkei.com/datadiscovery/06/>
- <https://www.pref.okinawa.jp/site/gikai/demaekouza.html>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください**